

「Lines of Sight ～それぞれのアジアへの視線～」

● PFW トップページ ● NPI トップページ

Title: 「海外フィールドワーク引率ブログ」



五十嵐大二

日本写真芸術専門学校
校二部報道写真科を
卒業後、フリーラン
スとしてアフリカの
撮影を中心に活動を
開始。
2002年には
Olympusがスポンサ
ーとなった「A Day in
the Life of Africa」プ
ロジェクトに参加。
現在、同校講師とし
て学生を引率しアジ
ア9カ国をフィール
ドワーク中。オリン
パスデジタルカメラ
を使用。
写真家樋口健二氏に
師事。

● 最近のエントリー

- ☞ Day 58 5月14日 マレーシアより (2006.05.14)
- ☞ Day 48 タイより (from Chiang Mai, Thailand) (2006.05.04)

● アーカイブ

- ☞ 2008年03月
- ☞ 2007年03月
- ☞ 2007年02月
- ☞ 2007年01月
- ☞ 2006年12月
- ☞ 2006年11月
- ☞ 2006年10月
- ☞ 2006年09月
- ☞ 2006年08月
- ☞ 2006年07月
- ☞ 2006年06月
- ☞ 2006年05月
- ☞ 2006年04月
- ☞ 2006年03月

● 投稿カレンダー

● カテゴリー一覧

● ブックマーク

学校法人 日本写真芸術専門学校
NIPPON PHOTOGRAPHY INSTITUTE

Your Vision, Our Future

RSS 2.0

海外フィールドワーク引率ブログ > 2006年05月 アーカイブ

06.05.14

Day 58 5月14日 マレーシアより

[Tweet](#)[Check](#)

5月14日

マレーシア・ペナン島より

最高気温32度、湿度は70%くらい。朝晩は海風があり涼しくなる。

5月11日午後2時45分、学生全員、タイのバンコク駅を寝台車に乗り出発。5カ国目の訪問国となるマレーシアの北の町、パトワースへ向かった。翌朝8時ころ、列車はタイ・マレーシア国境に到着。列車を一旦降り、駅構内でタイ出国とマレーシア入国手続きがおこなわれた。その後、列車はほぼ予定通り、5月12日午後12時55分ころ、終着駅のマレーシア・パトワース駅に無事到着。約22時間の長旅だった。学生たちはさすがに若く、概ね元気。

グループはパトワース駅で解散となり、学生たちはそれぞれの取材地へ向かって行った。私はペナン島へ行く学生13名と共にフェリーで島へ渡った。

ペナンはインド・イスラム・中国が混在する実に不思議な雰囲気のある島。宿泊先のホテル周辺は、アラブ（イスラム）風の建物とねっとりするような熱気で、一見、アフリカ東海岸の小さな港町に似たような感じがしてしまう。そのせいか、自分にとっては、これまで通過して来た町のなかで、ここが一番じっくりくる感じがする。町には中国系に加え、マレー人、インド人が多く、日本からいよいよ遠くへ来たという実感がわいてくる。

写真説明

(写真はすべてオリンパスE-1および720SWで撮影 All photos taken by Olympus E-1 and 720SW)



5月11日、タイ・バンコク駅をマレーシア・パトワースに向け出発。後方が寝台車。(左端・山口奈々子、前左から前田、宮澤、五十嵐、後方左より山市、羽立、安孫子、紺野、谷本、大谷、田栗、徳田、中島)





マレーシア・パトワース行き5月11日14時45分バンコク発



列車内にて（左より徳田、谷本）



列車内にて（左より田栗、佐藤）



列車内にて（谷本）



列車内にて（山市、奥は徳田）



列車内にて（安孫子）



列車内にて（今泉）



列車内にて（羽立）



列車内にて（中島）



列車内にて（左から宮澤、前田）



列車内の夕食（徳田）





寝台の準備をする車掌。隣は谷本



5月12日早朝。タイ・マレーシアの国境付近

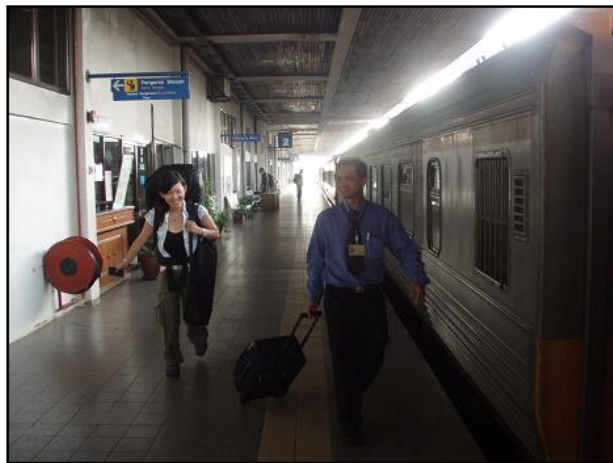


5月12日午前。タイ国境近くの小さな駅。植物でうっそうとした感じのプラットフォーム。車窓より。





列車内で朝食を食べる徳田



タイ・マレーシア国境の駅。出国・入国手続きを終え列車に戻る山口奈々子と彼女の荷物を運ぶ車掌



5月12日午後1時ころ。マレーシア・バトワース駅に到着。解散前、全員で記念撮影。



ペナン島行きのフェリー乗り場へ向かう学生（左から山市、宮澤、安孫子、佐藤）





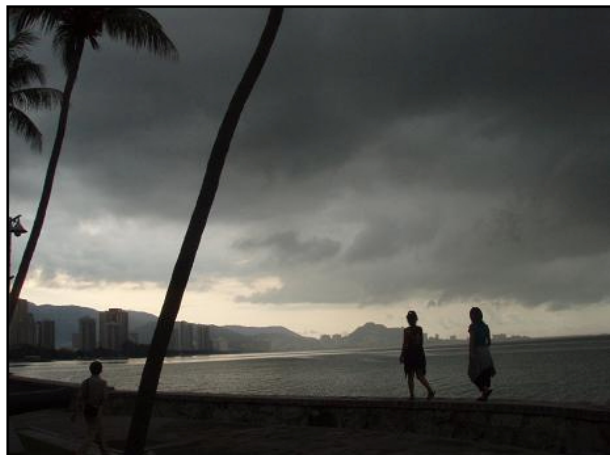
ベナン島行きフェリー乗り場へ向かう五十嵐



ベナン島へ向かうフェリー内で。スカーフ姿のイスラムの女性（子供）。



ベナン島。イスラムと中国がミックスした不思議な建築。



ベナン島。ホテルにチェックイン後、周辺の海岸をみんなで散策（左から藤野、山口ゆま）。5月12日。



ベナン島。ホテルにチェックイン後、周辺の海岸をみんなで散策（左から山市、早川、藤野、山口ゆま、田栗、前田、宮澤）。5月12日。



ベナン島。夕暮れ。5月12日。

カテゴリ：

post by 五十嵐太二 | 日時: 2006.05.14 | [バーマリンク](#) | [コメント \(28\)](#) | [トラックバック \(0\)](#)

[海外フィールドワーク記事ブログ](#) > 2006年05月 アーカイブ

06.05.04

Day 48 タイより (from Chiang Mai, Thailand)

[Tweet](#)

[CheckDay 48](#)

タイ・チェンマイ市

5月4日

カンボジアからタイへ、当地では一年で一番暑い時季を旅している。バンコクは気温37度。湿度は80%超。日本を出て早1ヶ月半、訪れた国も4カ国目となり、腹を壊す者、スリに遭う者など色々出てきたが、それでも、一人で取材に出かけ、汗だくでホテルに戻ってくる学生たちを見ていると、彼らのことが頼もしく思えてくる。もしこれが自分なら、この厳しい暑さでとくに根を上げていることだろう。

先日なども、アユタヤという町で象を見ていると、炎天下、自転車に乗った野球帽の男が私のそばにやってきて、ニコニコしながら声をかけてきた。誰かと思うと、何と、学生の一人、徳田君だった。

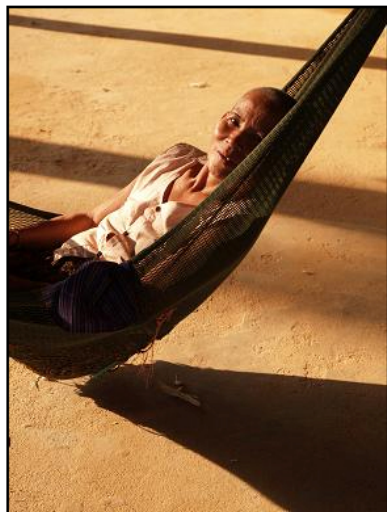
飛行機でタイ北部の町へ取材に行った男子学生からは、「着いたら違う町でした。飛行場でしばらく呆然としていました」と、とんでもない電話が入った。着いた町は本来の目的地と名前がちょっとだけ違う、500kmも南の町だった。しかし、取材したい場所が見つかったので、その町に留まりたいという。

フィールドワークで最低限欠かせないのは、やはり、体力・適応力・好奇心なんだろうと改めて思い、そして、皆の撮った写真を早く見てみたいと思っている。

写真説明

(all photos were taken by Olympus E-1 & 720SW)

カンボジア・プノンペン市郊外。新しい国ではハンセツツが黒玉。



カンボジア・アンコールワット周辺。象に乗り遺跡を巡る。



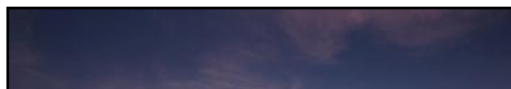
カンボジア・アンコールワットと僧侶



カンボジア・アンコールワット内でお祈りをする僧侶



カンボジア・アンコールワットの夕暮れ





カンボジア・アンコールワット



カンボジアのシェムリアップ市からタイの国境へバスで移動。4月26日



カンボジアとタイの国境へ向かう。暑さの中、悪路が続く。4月26日





カンボジア・タイ国境。カンボジア側の街、ポイベト着。ホテルへ向かう学生。4月26日



カンボジアからタイ側に入り、ミニバス3台に分乗しバンコクへ向かう準備。4月27日



タイ側の道路。舗装がよく整備されている。



バンコクまでの途中、休憩時間。セブンイレブンを見つけ買い物をする学生（左から前田、紺野、今泉）





タイ・バンコクのトゥクトゥク (タクシー)



バンコク。全員で食事に出かける (チャイナタウンを歩く学生。左から羽立、山口ゆま、藤野)



バンコクの地下鉄 (左から山市、中島)



ムエタイ (タイ式キックボクシング) のジムで取材する谷本。バンコク。4月30日 (Ms. Tanimoto using Olympus 800)





ムエタイ (タイ式キックボクシング) の試合。バンコク。4月30日



ムエタイ (タイ式キックボクシング) の試合を取材する谷本。バンコク。4月30日
(Ms. Tanimoto using Olympus 800)



バンコク駅。アユタヤへ出発 (左から山口ゆま、五十嵐、早川、宮澤、藤野) 5月1日

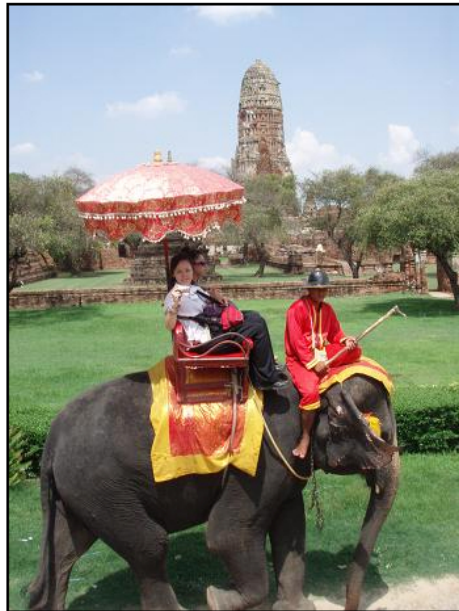




バンコク駅。列車を待つ学生（左端・宮澤、右端・藤野） 5月1日



アユタヤ。象に乗り世界遺産の遺跡を巡る学生（手前・宮澤、奥・藤野）。5月2日



アユタヤ。雑貨屋のような雰囲気インターネットカフェでe-mailをする五十嵐。5月2日



カテゴリ：

post by 五十嵐太二 | 日時: 2006.05.04 | [パーマリンク](#) | [コメント \(6\)](#) | [トラックバック \(0\)](#)